

報第4号

くま川下り株式会社の経営状況について

くま川下り株式会社の経営の状況を説明する書類（第55期決算報告書及び第56期事業計画書）を別紙のとおり報告する。

平成29年6月5日提出

人吉市長 松岡 隼人

第 5 5 期 決算報告書
第 5 6 期 事業計画書

く ま 川 下 り 株 式 会 社

人吉市下新町 3 3 3 - 1
代表取締役 井上 幸生

第 5 5 期

決 算 報 告 書

自 平成 2 8 年 3 月 1 日
至 平成 2 9 年 2 月 2 8 日

第55期 事業報告書

自 平成28年3月 1日

至 平成29年2月28日

事業概況

当社第55期の決算を行いましたので、事業の概況と経過をご報告申し上げます。

当期はご承知の通り、4月に発生しました熊本地震の影響で地震発生直後から夏休み前にかけて予約キャンセルが相次ぎ、さらには観光客の熊本地域への敬遠などで宿泊事業を除く全ての事業において業績が大幅に落ち込み、その結果、当期の総事業収入は、171,553千円(対前年82.6%)経常損失10,831千円となり損失計上となりました。

遊覧船事業

当期は、目標を震災後に20,500人と改め、ミドルコースをメインとして船頭16人、稼働船舶8隻での運航をいたしました。4月の熊本地震発生前までは前年を上回る実績で順調に推移していましたが、4月14日の前震及び4月16日の熊本地震本震の発生により、当地域では震災の被害はほとんどなかったものの約4,500人の予約客のキャンセルがあり、夏休み前までの3か月間(4/17～7/16)は前年の乗船客数の23.9%まで落ち込み、大きなダメージとなりました。当社といたしましても独自でショートコースとくまがわ荘温泉入浴をセットにした「くま川下り特割コース」の販売を企画し、乗船客・くまがわ荘利用客の増加を図りました。また、7月の夏休みに合わせて旅行代金の最大70%を割引く「九州ふっこう割」キャンペーンや人吉温泉観光協会による「地域振興のための無料クーポン券発行事業」等の震災復興キャンペーン利用で夏休み期間は前年並みの乗船客数を確保する事ができました。しかし、9月～11月においても震災の影響による落ち込みを挽回できず、結果的に△7,127人と大きく減少し、船賃収入としては、58,242千円(対前年78.0%)となり、前期より16,

363千円の減収となりました。

なお、設備等の状況におきましては、平成27年3月のミドルコース開始以降、温泉町着船場においては簡易階段で対応しておりましたが、平成29年1月に国土交通省並びに人吉市をはじめ関係者の方々のご尽力により階段が整備され、船の接岸と乗り降りの際の安全性が向上いたしました。

コース	客 数		増減 (率)	
	H28	H27		
ミドルコース	22,744	29,871	-7,127	76.1%
ショートコース	1,074	923	151	116.4%
梅花の渡し	76	397	-321	19.1%
計	23,894	31,191	-7,297	76.6%

レストラン「くまがわマルシェ」につきましては、くま川下り乗船客への利用促進やテレビ取材の参加、雑誌掲載、新聞広告掲載、2月に行われた「ひなバル」等各種イベントへの参加で利用客の増加に努めましたが川下り来遊者の減少も影響し、10,241人(対前年75.3%)の利用で、売上14,035千円(対前年74.3%)となりました。今後は、くま川下りとのセット販売や人吉球磨地区への宴会、各種会食等も積極的に売り込み、利用向上に努力してまいります。

人吉発船場周辺にて行っております手漕ぎの貸ボートにつきましては、管理面での負担に比べ、利用者も少ないため、廃止の方向で検討しております。

宿泊事業

平成11年度から人吉市から業務の管理運営を受託していました国民宿舍くまがわ荘につきましては、開業当時は順調に業績を重ね会社運営に多大な貢献をしておりますが、近年は宿泊者の減少が続き平成22年度から6年連続単独での損失計上や、施設の老朽化対策等の問題もあり、平成26年4月1日から平成29年3月31日までの協定期間の満了をもって国民宿舍くまがわ荘の指定管理から撤退することといたしました。

事業内容といたしましては、営業目標を震災後に宿泊人数5,400人、休憩宴会人数を25,600人と改め、例年行っていましたくま川鉄道の田園シンフォニーとの宿泊プランの継続やくま川下りとのパック商品、立ち寄り温泉等の利用促進を図るため、人吉球磨や近隣市町村の町内会・老人クラブ、過去の利用客へのダイレクトメールの送付やくま川下りとの合同営業活動を行い、くま川下りのショートコースと食事＋温泉パックを販売しました。熊本地震以降、より厳しい運営が予想されましたが、4月・5月・6月と観光客の減少はあったものの、代わりに震災支援関連の方々が長期に渡って宿泊して頂いた事や夏休みからの「九州ふっこう割」を利用した宿泊客の増加と、更に国民宿舎くまがわ荘の閉館を惜しみ、以前利用されていた方々が多数宿泊・宴会を利用して頂くなどで前年の実績を上回る事が出来ました。

実績としましては、宿泊人数5,285人(対前年108.5%)、休憩宴会人数25,193人(対前年106.1%)の利用となり、総売上67,615千円(対前年104.0%)となりました。

その他事業

売店物品販売につきましては、7,398千円(対前年81.2%)で内訳は、くま川下り4,931千円(対前年76.3%)、くまがわ荘2,467千円(対前年92.9%)となりました。売上増とするためには何といたっても来店する人の数が基本でありますので、熊本地震による観光客の減少は大きな売上減の要因となってしまいました。これからは、くま川下り以外の観光客が気軽に立ち寄れる店内となるよう各地のバス会社へのトイレ休憩の利用による購買者開拓や当社ホームページ上での利用促進をするとともに、魅力ある商品を置くことと販売員の明るい対応でお客様と売上の増加につなげてまいります。

ラフティングにつきましては、目標を震災後1,900人と改め、営業をいたしましたが、秋季分においても熊本地震の影響により関西・関東からの教育旅行のラフティング体験がほぼ全てキャンセルになり、その結果、1,418人(対前年32.6%)、収入で8,013千円(対前年33.1%)と大変厳しい利用実績となりました。また、請負事業につきましては、今期も前期並みの受注を受けました。結果的に売店物品販売・ラフティングの減少

が響き、その他事業部門で総収入として当期 32,395 千円(対前年 64.6%)となりました。

貸借対照表

平成29年2月28日現在

くま川下り株式会社

資 産 の 部		負 債 及 び 純 資 産 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
	円		円
I 【流 動 資 産】	【 17,607,187 】	I 【流 動 負 債】	【 34,872,502 】
現 金	717,564	買 掛 金	1,163,050
当 座 預 金	27,732	短 期 借 入 金	5,000,000
普 通 預 金	8,742,402	未 払 金	20,805,322
ク ー ポ ン	1,256,010	未 払 費 用	766,591
棚 卸 資 産	2,625,882	前 受 金	158,549
前 払 費 用	2,137,167	預 り 金	1,048,903
未 収 入 金	1,726,936	仮 受 金	188,187
仮 払 金	373,494	未 払 消 費 税	5,403,400
		未 払 法 人 税 等	338,500
II 【固 定 資 産】	【 131,689,152 】	II 【固 定 負 債】	【 131,576,000 】
1 (有形固定資産)	(121,907,719)	長 期 借 入 金	131,576,000
建 物	26,039,150	負 債 合 計	166,448,502
建 物 付 属 設 備	767,364		
構 築 物	4,173,238	I 【株 主 資 本】	【 -17,152,163 】
機 械 装 置	67,486	1 資 本 金	[24,000,000]
車 両 運 搬 具	1,851,437	2 利 益 剰 余 金	[-41,152,163]
船 舶	972,453	利 益 準 備 金	(4,240,000)
什 器 器 具 備 品	3,287,913	そ の 他 利 益 剰 余 金	(-45,392,163)
土 地	84,748,678	繰 越 利 益 剰 余 金	-45,392,163
2 (無形固定資産)	(2,281,433)		
電 話 加 入 権	1,023,905		
借 地 権	1,257,528		
3 (投資その他の資産)	(7,500,000)		
温 泉 利 用 権	7,500,000		
		純 資 産 合 計	-17,152,163
資 産 合 計	149,296,339	負 債 ・ 純 資 産 合 計	149,296,339

損益計算書

自 平成28年3月 1日
至 平成29年2月28日

くま川下り株式会社

科 目	金 額	
(経常損益の部)		円
I【営業損益】		
1(純売上高)		
船 賃 収 入	58,242,777	
国 民 宿 舎 収 入	66,924,193	
売 店 売 上	7,398,984	
レ ス ト ラ ン 収 入	14,035,826	
そ の 他 収 入	20,883,664	
値 引 き	△ 772,240	166,713,204
2(売上原価)		
期 首 棚 卸 高	953,657	
売 店 仕 入	5,190,116	
当 期 製 造 原 価	88,745,224	
期 末 棚 卸 高	△ 760,264	94,128,733
売 上 総 利 益		72,584,471
3(販売費及び一般管理費)		85,747,098
営 業 損 失		13,162,627
II【営業外損益】		
1(営業外収益)		
受 取 利 息	342	
写 真 取 扱 手 数 料	1,217,503	
雑 収 入	3,622,225	4,840,070
2(営業外費用)		
支 払 利 息	2,474,014	
雑 損 失	34,732	2,508,746
経 常 利 益		△ 10,831,303
(特別損益の部)		
III【特別損失】		
固 定 資 産 除 却 損	2,014,034	2,014,034
当 期 利 益		△ 12,845,337

第 5 6 期

事 業 計 画 書

自 平成 2 9 年 3 月 1 日

至 平成 3 0 年 2 月 2 8 日

事業計画

熊本地震による被災地の復旧も徐々に進み5月の大型連休を前に最も懸念されていた、高速道路の益城・御船間の対面交通区間の連休前解消も発表され、観光客の動きも活発になってきましたが、国を挙げての熊本地区への観光客誘致を進めた熊本地震復興割キャンペーンもなくなり、これからが正念場と考えています。このような状況ではございますが、会社再生に向け、今期の目標をくま川下り乗船客33,500人、ショートコース1,100人、ラフティング利用者1,900人と定め営業活動を行ってまいります。

くま川下りにつきましては、平成27年度から運航を行っているミドルコースを営業の柱とし、短い乗船時間でも安全な場所での櫓漕ぎ体験や、船頭との会話を楽しんでもらうとともに下船後もシャトルバスで安全にお送りし、心に残る船旅になるよう努めます。

営業面では、当社独自の営業活動や関係機関と連携をとりながらの他県へのセールス活動、さらに、テレビ等メディア取材を積極的に取り入れ、少ない予算で大きな効果を得られるよう努力いたします。

今年度も西鉄旅行バスハイクなど集客実績の高いツアー等の予約も頂いておりますが、団体旅行に限らず、船の稼働率及び1隻当りの乗船率を上げられるよう個人、グループの獲得も引き続き努力します。また、年々増加傾向にあるインバウンド観光客につきましては社員教育を始めとして受入態勢を充実させ、一般のインバウンド観光客はもとより八代港に入港するクルーズ船利用者を少しずつでも獲得出来るよう行政等とも連携し努力いたします。ラフティングに関しましては、教育旅行の回復には数年を要する見通しであり、熊本県教育旅行受入促進協議会等と連携し誘致活動を継続しつつ、一般個人・グループ等へのアプローチを強め、ネット販売等も積極的に活用し利用者の増加に努めます。

設備等の課題といたしましては、船舶の老朽化に伴い新造船の製造が急務となっておりますが、船材の手配・購入など段階的に進めてまいります。

雇用面については、震災後に2人の若手船頭が離職しております。震災の影響で仕事が激減したことが原因のひとつに挙げられますが、新たな船頭確保とともに安定した雇用体制を構築するには、当社の基本となる川下り事業

が天候等の影響で、経営を大きく左右される以上、早急に国民宿舎くまがわ荘の宿泊事業に替わる新たな収益の事業を摸索し経営基盤の安定化を図り、雇用の安定化に繋げてまいりたいと存じます。最後に、現在休止しておりますロングコースと激流コースにつきましては行政及び関係団体とも協議しながら航路と船着場の整備を含む諸問題を一つずつ解決し再開に向け努力します。

各関係の皆様におかれましては、現状をご理解の上、更なるご支援、ご協力を心よりお願い申し上げます。

損益計画書

自 平成29年3月 1日
至 平成30年2月28日

くま川下り株式会社
(単位:千円)

科 目	金 額	
(経常損益の部)		千円
I【営業損益】		
1(純売上高)		
船 賃 収 入	84,650	
国民宿舎収入(3月)	2,156	
売 店 売 上	7,206	
そ の 他 収 入	21,270	
レストラン売上	15,817	
値 引 き	△ 1,272	129,827
2(売上原価)		
期 首 棚 卸 高	1,030	
売 店 仕 入	5,097	
当期製造原価	66,750	
期 末 棚 卸 高	△ 954	71,923
売上総利益		57,904
3(販売費及び一般管理費)		54,752
営業損益		3,152
II【営業外損益】		
1(営業外収益)		
受 取 利 息	1	
写真取扱手数料	1,875	
雑 収 入	2,371	4,247
2(営業外費用)		
支 払 利 息	1,331	
雑 損 失	424	1,755
経 常 利 益		5,644